

8月11日 「ギリシャチプラスの乱」から、話題は、いよいよ「中国経済の謎」へ

今年の株式市場、前半の **Season 1** は、ギリシャが発狂しそうになり、もう少しで EC 離脱、という未曾有の出来事が起こりそうになりました。

しかし、間一髪で危機は回避、ギリシャのチプラスは実は知恵者だったというオチに、他の主演級、キャメロン、メルケルは、胸にくさりあったままながらも、ハッピーエンドに向かいそう、というところでひと段落でした。

一方、米国の利上げ問題は、その時期を 9 月、という読みを市場ではコンセンサスにしようと努力し、ほぼその材料を織り込んだと言えるでしょう。

そして、ここで市場の雰囲気は変わりました。

いよいよ今週から、**Season 2** が始まります。

ここでは、**Season 1** の冒頭でちょっぴり話題に出た、中国危機がいよいよ本格化します。

まず、原油価格が先週、急落し、WTI が 43 ドル台に、落ちたのです。

中国経済の先行きも、原油価格に影響します。

さらに、中国の経済指標が「ねつ造されている」という可能性について、ロイターが報道を始めました。

これは、世界経済に大きな影響を与える可能性があることです。

さて、この **Season 2** での見所の一つは、東京市場の役割ですね。

実は、ここ最近、東京市場と NY 市場の連動性が薄れているのです。そこには、大きな流れの変化があります。

それは、原油価格の下落、米国の金利引き上げ、この両方を好材料として織り込める唯一の先進国の市場が、東京市場だ、ということ。

そしてもう一つは、「アジアへの投資＝中国への投資」となってきたここ数年の流れが、中国経済への様々な不安感から、「アジア＝東京」という見方に戻りつつある、ということです。

そういうわけで、**Season 2** では、海外市場の不安要素が、東京市場への資金逃避に繋がるかもしれない、というところが一つのポイントになりそうです。